

新型コロナウイルスの発生とBCMの緊急対策

～最悪のパンデミックに備え、抗ウイルスマスク、消毒剤、噴霧材、防護服などの備蓄、活用が必要～

令和2年1月20日
セリングビジョン株式会社

新型コロナウイルスが、昨年12月8日に中国湖北省武漢の海鮮市場で発生し、たった一ヶ月後には中国北京上海、深圳などに飛び火し、日本、韓国やタイでも感染者が渡航して発症が明らかになり、今週末からの一週間の中国人観光客70万人の影響も懸念されている。

ヒトからヒトへの感染も発生しており、いまは限定的であるが、いつ、拡散するかはだれも予測ができないから不気味である。最悪のことも考えて企業もBCM(事業継続経営)が必要であり、想定外という言い逃れはしないことが危機管理の基本である。

新型コロナウイルスは世界的に蔓延(パンデミック)する可能性もゼロでないため、日本も、空港やクルーズ船などで封じ込め作戦をしっかりとしなければならない。英国の大学ですでにタイ、日本含めて世界で1700人感染とか伝えられている。米国でも主要な空港では検疫官を用意し厳重な入国チェックをしている。それでもサーモグラフィで発熱の渡航者を発見できても、解熱剤で発熱が抑えられていたり、潜伏期間で発熱が起きていない場合は、検疫ゲートを潜り抜けてしまう。

中国人や海外の感染者は一般的にマスクをしていないので、潜伏期間中に、感染が広まり、封じ込め対策が失敗するとパンデミックも非常に危ないと識者は語っている。

致死率はまだわからないものの、数%以上かも知れない。(SARSでは10パーセント=775死者/8060感染者、MERSでは34%の致死率=858/2494)

中国政府も習近平国家主席が、トップダウンで新型コロナウイルス対策に万全の対応をするように中国国内に指示している。

なんといっても新型ウイルスには特効薬やワクチンが開発されていないので、患者の免疫力や持久力が頼りであり、基礎疾患のある高齢者や大病を患っている患者は特に危ないと考えるべきである。

「風や肺炎を引き起こし呼吸困難になる新型ウイルス」であるが、変異しているためまだその正体はわからない。

発熱は40度を数日超えたとの患者の診断もあった。

必要なことは、できるだけ込み合う場所では必ずマスクを着用し、うがい・手洗い(消毒液等)を励行し、広がりを見せたら、事務所・家庭での対ウイルス噴霧材、そして感染者との接触には防護服が必須であろう。

セリングビジョンでは、抗ウイルスマスク(N95、N99マスクなど)、防護服、消毒剤、噴霧材などを用意しているので、

いつでもお問い合わせしてください。

今年は、インフルエンザの流行も例年の数倍とも言われており、まずは、かからない、かかったら移さないというエチケットを守らなければならない。東京五輪・パラリンピックを迎える今年、衛生にはことのほか、企業も国民も留意すべきではないだろうか。